

第64回 愛媛県高等学校放送コンテスト

朗読部門 決勝課題

「緑よ。ほら、この音」

巾を弾いて左手で軽く押えた。片方の耳を乗り出すように聴いて、寿久は云った。

「緑か。ふん、そやな、お前に似合うやろ」

その時の会話を、邦枝は懐かしく思い出していた。

乳児期すでに失明していた寿久に、色彩を娘は音で伝えた。三味線や琴で、彼は娘から色を聴いた。音感に並外れた才能を持つ父と子が考え出した「言葉」であった。

『地唄』有吉佐和子